

平成 28 年度「地産地消等ノウハウを実践者に学ぶセミナー」開催報告

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

平成 28 年度の日本の食消費拡大国民運動推進委託事業（地産地消優良活動等表彰業務）の一環として、これまでの地産地消および国産農産物の消費拡大に関する表彰を受けた団体の実践者に学ぶ研修会を全国 5 カ所で開催した（主催：農林水産省 企画・運営：一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構）。

■東京会場：2017 年 1 月 24 日（火）13:00～16:30 参加者：36 名

会場：東京都千代田区「エッサム神田ホール 1 号館」2 階・多目的ホール
テーマ：地場産活用・消費拡大

■東海会場：2017 年 2 月 13 日（月）13:00～16:30 参加者：62 名

会場：愛知県名古屋市「名古屋ダイヤビルディング貸会議室」2 号館・2 階・223 号室
テーマ：地場産活用・施設給食（学校等）

■近畿会場：2017 年 2 月 22 日（水）13:00～16:30 参加者：35 名

会場：京都府京都市「京都リサーチパーク」東地区 1 号館 4 階サイエンスホール
テーマ：地場産活用・施設給食（施設等）

■九州会場：2017 年 2 月 27 日（月）13:00～16:30 参加者：41 名

会場：長崎県大村市「おおむら夢ファーム・シュシュ」
テーマ：交流促進＋地域振興 ※希望者には地産地消の食の交流会と農家民宿への宿泊案内

■東北会場：2017 年 3 月 16 日（木）13:00～16:30 参加者：47 名

会場：山形県飯豊町「フォレストいいで」
テーマ：地場産活用＋交流促進 ※希望者には地産地消の食の交流会と農家民宿への宿泊案内

平成28年度日本の食消費拡大国民運動推進委託事業（表彰業務）

地産地消等ノウハウを実践者に学ぶセミナー 開催案内

地産地消や国産農林水産物の消費拡大等に関する農林水産省の表彰事業受賞団体の実践者から、その活動内容など最新のノウハウを直接に学ぶセミナーを全国5カ所で開催します。

開催日程・会場

開催日程に変わっています

東京会場：2017年1月24日（火）
会場：東京都千代田区「エッサム神田ホール1号館」2階・多目的ホール ※終了しました
テーマ：地場産活用・消費拡大

東海会場：2017年2月13日（月）
会場：愛知県名古屋市「名古屋ダイヤビルディング貸会議室」2号館・2階・223号室
テーマ：地場産活用・施設給食（学校等）

近畿会場：2017年2月22日（水）
会場：京都府京都市「京都リサーチパーク」東地区1号館4階サイエンスホール
テーマ：地場産活用・施設給食（施設等）

九州会場：2017年2月27日（月）
会場：長崎県大村市「おおむら夢ファーム・シュシュ」
テーマ：交流促進＋地域振興
※希望者には地産地消の食の交流会と農家民宿への宿泊案内も用意できます

東北会場：2017年3月16日（木）
会場：山形県飯豊町「フォレストいいで」
テーマ：地場産活用＋交流促進
※希望者には地産地消の食の交流会と農家民宿への宿泊案内も用意できます

共通プログラム
13:00 開会
13:10 事例紹介①～③ 各30分
15:00 質疑応答・意見交換（約90分）
16:30 閉会

参加定員 各50名程度（事前数割席）
※希望者には地産地消の食の交流会と農家民宿への宿泊案内も用意できます

参加費 無料
ただし、東北・九州会場の希望者にはそれぞれ旅費（交通費、宿泊費）を別途お支払いいただきます。セミナー参加費は別途お支払いとなります。

主催 農林水産省
企画・運営 一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構（まちむら交流きこう）

地産地消等ノウハウを実践者に学ぶセミナー 東北会場 開催案内

地産地消や国産農林水産物の消費拡大等に関する農林水産省の表彰事業受賞団体の実践者から、その活動内容など最新のノウハウを直接に学ぶセミナーを全国5カ所で開催します。

日時：2017年3月16日（木）13:00～16:30
会場：フォレストいいで
〒999-0423 山形県西置賜郡飯豊町大字須郷421-1 TEL0238-78-0010

参加費無料（定員60名） 地産地消や国産農林水産物、食品の消費拡大を推進する生産者・実践者・企業・教育関係者、行政関係者、支援者等、地産地消や消費拡大に関心がある方はどなたでも参加できます。

プログラム テーマ：地場産活用＋交流促進（敬称略）

13:00 開会（開場12:00～）
13:10 事例紹介 各30分

①なかつがわ農家民宿組合（山形県飯豊町） 組合長 伊藤 ふみ
～農家民宿組合として、都市部からの地産地消や企業研修、さらには外国人客も受け入れ、地域の食文化等を伝える ★平成26年度地産地消優良活動表彰・農林水産大臣賞

②阿部の里の里（青森県おいらせ町） 代表 苫米地 義之
～産地所、加工所、飲食施設や観光農園までを運営し、障がい者も雇用する。もち小麦の産地化とその普及も進める ★平成27年度地産地消優良活動表彰・農林水産大臣賞

③さいたまヨーロッパ野菜研究会（埼玉県さいたま市） 事務局 福田 裕子
～ヨーロッパ野菜の生産振興を飲食店、流通関係者、福祉施設などが連携して進め、県内外での需要を大きく広げる ★平成28年度地産地消等優良活動表彰・食料産業局長賞

15:20 質疑応答・意見交換 約70分
～コーディネーター 食ジャーナリスト 金丸 弘美
～食の総合プロデューサーとして、地域の食文化・食育・地産地消などをテーマとするワークショップの開催や食のデモンストラティブを全国で進めている～

16:30 閉会

オプション企画 ※希望の方は参加申込用紙に記入の上、お申込み下さい
17:30～ 交流会 フォレストいいで（参加費4,000円・夕食・飲み物）
20:00～ 農家民宿への宿泊（6,000円・朝食）※希望者には別途お申し込みが必要です。農家民宿・農家民宿は2泊3日～17日（金）は農家民宿、朝13:00～14:00は内閣府民権、電通野田建設、道の駅いいて、めざみの里等を訪問後＝＝＝～

セミナー企画・運営（一財）都市農山漁村交流活性化機構（まちむら交流きこう）事務局 地域活性化チーム
〒101-0042 東京都千代田区神田東下町4-5番地 神田ビル5F 電話：03-4335-1994（土曜・日曜・祝祭日）
Eメール：info@cityfarm.or.jp URL: http://www.cityfarm.or.jp/

主催 農林水産省
企画・運営 一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構（まちむら交流きこう）

開催案内チラシ（全体）と各会場別に作成した開催案内（右は東北会場の見本）

①開催告知期間および方法

平成 28 年 12 月より各セミナーの開催期日まで、開催案内の都道府県等への送付、ホームページや SNS を活用した告知の他、ウェブを中心としたメディアへの情報発信を行った。

②延べ参加者数 221 名

③各セミナー会場の報告者等

●東京会場 1 月 24 日（火）

- ・挨拶 農林水産省 食料産業局 食文化・市場開拓課 国産消費企画班 課長補佐 宮路 典彦
- ・事例紹介 パルシステム生活協同組合連合会（東京都新宿区）商品開発本部 産直部長 島田 朝彰
JA 東京むさし小平支店（東京都小平市） 指導経済課長 窪田 文一
株式会社農業総合研究所（和歌山県和歌山市） 取締役副社長 堀内 寛
- ・コーディネーター 東京農工大学大学院 教授 野見山 敏雄



●東海会場 2 月 13 日（月）

- ・挨拶 農林水産省 東海農政局 経営・事業支援部長 飯田 健雄
- ・事例紹介 川辺町学校給食センター（岐阜県川辺町） 栄養教諭 小林 直子
宝達志水町立宝達中学校（石川県宝達志水町） 栄養教諭 北出 宏予
越前町立朝日学校給食センター（福井県越前町） 栄養教諭 水嶋 真由美
- ・コーディネーター 女子栄養大学名誉教授 金田 雅代



●近畿会場 2 月 22 日（水）

- ・挨拶 農林水産省近畿農政局 経営・事業支援部 地域食品課 課長補佐（地域食品） 久保田 孝浩
- ・事例紹介 彦根市立病院（滋賀県彦根市） 栄養科 管理栄養士 大橋 佐智子
岩手県立中央病院（岩手県盛岡市） 診療支援部 栄養管理科 梶原 史乃
認定こども園 さざなみ保育園（熊本県人吉市） 栄養士 神瀬 知香
- ・コーディネーター 京都府立大学 講師 中村 貴子



●九州会場 2月27日(月)

- | | | |
|-----------|----------------------------------|-------|
| ・挨拶 | 農林水産省九州農政局 経営・事業支援部 地域食品課長 | 林 稔久 |
| ・事例紹介 | おおむら夢ファームシュシュ（長崎県大村市） 代表取締役 | 山口 成美 |
| | 農業生産法人(株)あいあいファーム（沖縄県今帰仁村）経営企画室長 | 加力 謙一 |
| | (株)丹青社 よかもんカフェ（福岡県福岡市） 副統括マネージャー | 金丸 萌子 |
| ・コーディネーター | 食ジャーナリスト | 金丸 弘美 |



●東北会場 3月16日(木)

- | | | |
|-----------|----------------------------|-----------|
| ・挨拶 | 農林水産省東北農政局 経営・事業支援部 地域食品課長 | 大山 貴司 |
| | 飯 豊 町 長 | 後藤 幸平 |
| ・事例紹介 | なかつがわ農家民宿組合（山形県飯豊町） | 組合長 伊藤 ふみ |
| | (株)アグリの里おいらせ（青森県おいらせ町） | 代表 苫米地 義之 |
| | さいたまヨーロッパ野菜研究会 事務局 | 福田 裕子 |
| ・コーディネーター | 食ジャーナリスト | 金丸 弘美 |



④参加者アンケートまとめ

■東北会場：2017年3月16日（木）13:00～16:30

●参加者：47名

●アンケート回答者：10名（回収率21%）

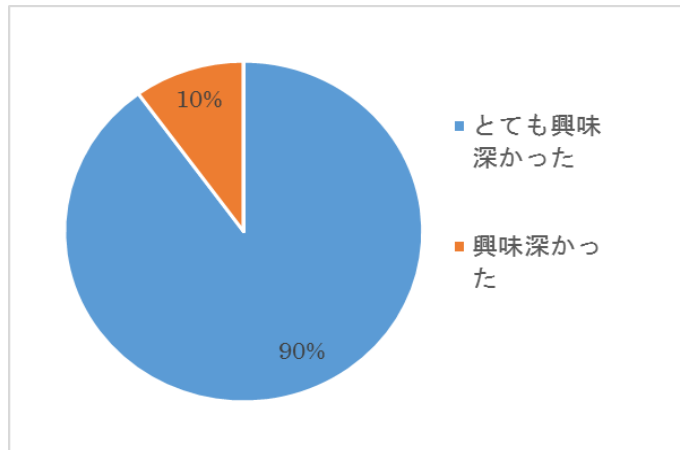
●会場：山形県飯豊町「フォレストいいで」

●全体テーマ：地場産活用＋交流促進

1 ご自身の所属について

(1)消費者・消費者団体・・・0名 (2)生産者・生産者団体・・・0名 (3)民間企業・・・3名
(4)行政機関・・・4名 (5)メディア関係者・・・0名 (6)その他・・・3名（市議会議員、民宿）

2 今回のセミナーの内容はいかがでしたか？



3 本セミナーのご感想

(1) とても興味深かった

- ・中津川の皆さんが自立しながら生き活きとしている様子を目の当たりにして改めて自分の足元を見ることの大切さに気づかされた。交流会も充実しており、参加してとても良かった。
- ・様々な角度からの地産地所を見直すことができたのでとても良かった。
- ・地産地消の考え方が様々なことに今日気付かせていただいた。
- ・先進地の様々な事例、取り組みが分かって良かった。
- ・目から鱗の内容が多く、大変勉強になった。
- ・スピーカー3名も素晴らしかったが、進行・インタビュアーが根掘り葉掘り聞いたくださり満足感、情報たっぷりですばらしい会だと思った。
- ・内容は濃くて良かったが場所が分かりづらかった。
- ・自分の地域と比べながら話を伺えた。応用していければいいと思った。
- ・大規模で活躍されている団体の発表を聞いて初めは戸惑いつつ、内容を聞くにつれ参考になることが多々あり、利益追求のみではない付加価値（人間的なつながりや思いやり等）を感じた。

(2) 興味深かった

- ・3名の方、自信に満ちていて良かった。まとめ役、中心というか核となる方の存在が重要と感じた。

4 今後、地産地消や国産農産物の消費拡大に関するセミナー等を取り上げて欲しいテーマ

- ・流通の戦略とネットワーク構築のヒントが得られるセミナーを期待。
- ・地元野菜を地元で流通させる手法。PR・プロモーションの先行事例の紹介。農業者以外の人も入れるもの。
- ・食、交流事業
- ・流通をどう考えるべきかを論ずるもの。
- ・インバウンド、流通の新しい形。
- ・山菜や伝統野菜離れに対応するには、レシピ伝承等を含め。

5 今後、地産地消や国産農産物の消費拡大の推進に向けて国の事業等で推進して欲しいこと

- ・食育事業の推進。農産物のみならず観光・教育といった面での副次的な効果との関連についての奨励政策。
- ・地方単位でのフェアなど。
- ・中山間地域の方、食育の推進。
- ・成功事例の発表となることは仕方がないと思うが、もう少し掘り下げて苦労や課題等を出して欲しい。
(※後半では若干掘り下げていただいた)

6 その他、ご意見

- ・セミナー、オプション企画ともに非常に参考になった。自分の今後の事業にも応用させていきたいと思う。
- ・とても勉強になった。
- ・問題を解決したいがお金がない→お金がないならその中で進める、色々な方を引き込む、楽しそうだから参加したくなる、良い循環があってとても素晴らしい取り組みを聞くことができた。
- ・参加者の広がりがないように感じた。

■東京会場：2017年1月24日（火）13:00～16:30

●参加者：36名 ●アンケート回答者：9名（回収率 25%）

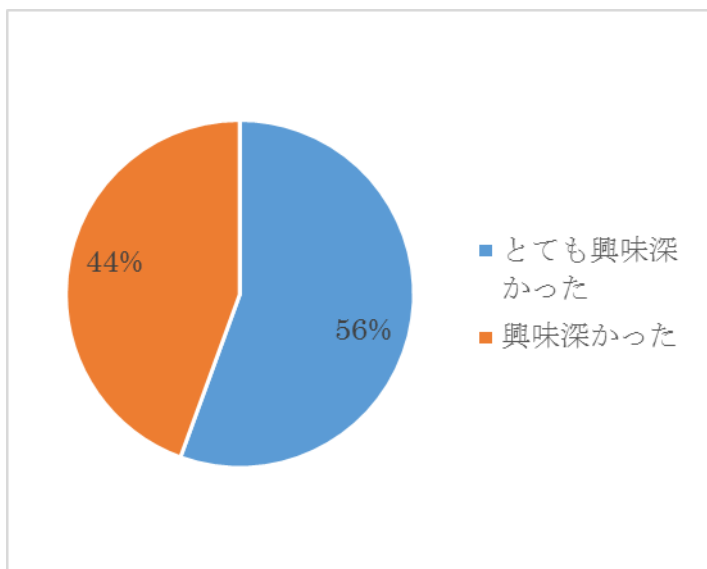
●会場：東京都千代田区「エッサム神田ホール1号館」2階・多目的ホール

●テーマ：地場産活用・消費拡大

1 ご自身の所属について

(1)消費者・消費者団体・・・0名 (2)生産者・生産者団体・・・0名 (3)民間企業・・・・・・・・・・0名
(4)行政機関・・・・・・・・・・7名 (5)メディア関係者・・・・・・・・・・1名 (6)その他・・・・・・・・・・1名（NPO）

2 今回のセミナーの内容はいかがでしたか？



3 本セミナーのご感想

(1) とても興味深かった

- ・3事例とも参考になった。
- ・実践者に直接話を伺う機会ができてとても勉強になった。
- ・全国展開の事業から都市近郊の地方の取り組みまで様々な取り組みの話が聞けて参考になった。
- ・地産地消はもとよりそこへ至る配送システム等の工夫が知れた。
- ・とても興味深い内容ばかりのセミナーで良かった。

(2) 興味深かった

- ・報告事例がどれも詳細に聞けて参考になった。報告者も会場の質問に対して細かく対応していて良かったと思う。
- ・大変勉強になった。
- ・第一線で活躍されている方々の詳しい話を聞けたので大変参考になった。
- ・充実的な内容だった。企業として実績を挙げていることを公表されていて、もっと世の中に知られて良いと感じた。

4 今後、地産地消や国産農産物の消費拡大に関するセミナー等で取り上げて欲しいテーマ

- ・高齢化する生産者への対応、消費者への対応（地産地消に特化した集荷宅配等）。
- ・6次産業化、加工業務用の1次加工。
- ・地方から大都市の消費地への農産物供給の取り組み。
- ・後継者対策。いくら地産地消の仕組み作りを進めても、それを担う生産者が減っていけば仕組みの継続は難しいため。
- ・食料自給率と食品ロス。
- ・学校給食に関する地産地消の導入事例。
- ・地産地消が本当に出来ているのか。
- ・6次産業という言葉のように、加工が重要だと思う。
- ・生産者側の意見が聞けるようなセミナーを聞いてみたい。

5 今後、地産地消や国産農産物の消費拡大の推進に向けて国の事業等で推進して欲しいこと

- ・集荷宅配に対する助成（地産地消に特化したメニュー）。
- ・地産地消の取り組みを消費者へPRする事業。
- ・担い手、高齢化対策。
- ・PR等の支援の交付をお願いしたい。
- ・農家を保全するための施策が必要。ただ、お金をばらまくのでは残るべき農家（農業全体）を応援してあげること。
- ・生産者と消費者の間に必ず取りまとめをする団体がワンクッションしなければ、地産地消は難しいと思う。補助がなく独立採算できる事業を計画していきたい。

6 その他、ご意見

- ・セミナーに参加してみて、農業には色々な可能性があると感じた。地域を少しでも良く出来るように取り組んでいきたいと思った。
- ・今後とも引き続きこういうセミナーを継続してほしい。

■東海会場：2017年2月13日（月）13:00～16:30

●参加者：62名 ●：アンケート回答者27名（回収率43%）

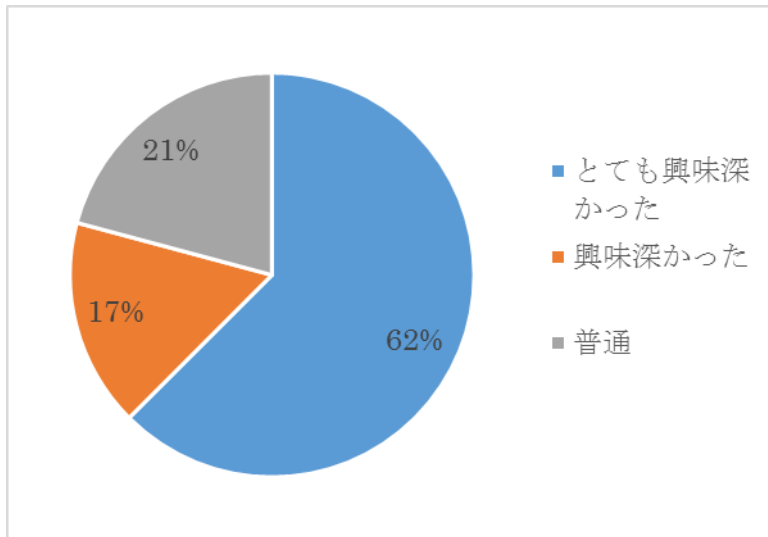
●会場：愛知県名古屋市「名古屋ダイヤビルディング貸会議室」2号館・2階・223号室

●テーマ：地場産活用・施設給食（学校等）

1 ご自身の所属について

(1)教育関係者・・・15名 (2)生産者・生産者団体・・・1名 (3)行政関係者・・・4名
(4)民間企業・・・7名 (5)メディア関係者・・・0名 (6)その他・・・0名

2 今回のセミナーの内容はいかがでしたか？



3 本セミナーのご感想

(1) とても興味深かった

- ・各市町の地産地消の実践例を、写真を交えて聞くことができて良かった。また、農家の方とのつながりができていることが羨ましいと感じた。
- ・有意義なセミナーをありがとうございました。地元の食材をもっと使っていくための良い方法を考えていきたいと思う。
- ・各行政の方が地場産物利用に興味を持たれていることが肌で感じられた。勤務地には地元農家との連絡関係があるため仕組みをよく理解しておきたい。
- ・発表者の皆様、ありがとうございました。
- ・子ども園・学校等、子ども向けだけでなくその子どもに一番初めに食事を作る親向けのアピール等も良いのでは（妊婦さん・3か月6か月の赤ちゃん検診に見えた方）。
- ・学校給食における地場産物の活用について等、地産地消を進めるにあたって関わる方々の思いや疑問を知ることができ勉強になった。
- ・3カ所の先進的な事例を紹介してもらい参考になった。その後の質問が具体的で分かりやすかった。そして金田先生と3人の先生の話がまた具体的でよく分かった。
- ・質疑応答の時間を沢山とってもらい実践者の方の生の声から学ぶことができ、大変有意義な時間になった。
- ・実践者による発表が具体的で分かりやすかった。地産地消推進体制が普及するには体制作りが重要であると感じた。
- ・県内だけでなく、各県の食育や地産地消の取り組み、補助の詳細を知ることができてとても興味深く有意義な時間を過ごすことができた。今後の当県の取り組みの参考にさせていただきたいと思う。
- ・自分のところでの悩みと同じ悩みをもっていることが分かり、また明日から頑張ろうと思った。それぞれの取り組みや考え方がとても参考になった。
- ・3名の実践報告は素晴らしかった。献立作成者として改めて献立のねらいや想いを大切にしたいと思った。
- ・他市、県の先進的な情報が聞けてどう自分の市に活かせるかを考えるよい機会となった。
- ・異物混入の対応などとても参考になった。
- ・地域の連携について良い事例を多く知ることができて良かった。
- ・他県の地産地消の取り組み、工夫などを知ることができて良かった。
- ・学校給食関係者ばかりでなく行政関係者の方の出席もあったため、行政も参画して地産地消を進めていただけるきっかけになりそうで期待感が高まった。
- ・地産地消を取り扱う他事例について知りたい。

(2) 興味深かった

- ・地産地消を進めるにあたり、それぞれの仕組みづくりの話が聞けて良かった。
- ・3人の方の実践を詳しく伺えたので大変参考になった。特にシステムについて詳しく伺えたのが良かった。
- ・各自治体の特色やノウハウを聞くことができ、大変勉強になった。栄養教諭の先生方が日々子どもたちのために考えた献立を提供、生産者の方や行政と協力している事例をきくことができて良かった。
- ・地産地消以外の話も聞けて良かった。

(3) 普通

- ・学校給食と国、県、市町村等との連携について、事例紹介や他県の状況等について理解ができた。
- ・給食事例に寄り過ぎていたと思う。
- ・異物混入の取り組みは関心を持った。結果論だが、ディスカッションに時間を割いた方が良かった。
- ・愛知県の取り組みについて聞きたかった。
- ・地産地消は食育の意味では重要。

4 今後、地産地消や国産農産物の消費拡大に関するセミナー等で取り上げて欲しいテーマ

- ・大規模調理場での地産地消の進め方。
- ・地産地消に取り組む食事・弁当等の営業者への栄養表示の指導的セミナー。
- ・今日のようなテーマでまた設定してもらいたい。単独校の方、共同調理場の方、双方の立場の方が見えた。
- ・生産者側の課題。
- ・業者、市、県、学校との連携方法についての事例。
- ・JAなど婦人会の方々が地場産物を活用した伝統食の料理教室をしていると聞きました。伝統食をどのように啓発しているのか、場や手だてなどを取り上げてほしい。
- ・生産者との連携にいたるまでの具体的な仕組みづくりについて。
- ・農作物の育て方、栽培などの基礎知識。食品ロス削減の取り組みについて。
- ・学校給食に限らなくても良いが、地産地消や国産農産物の消費拡大を図って過去から今までどの程度拡大してきたのか、また、どの程度の効果があったのか。具体的な目標や目指す方向等をテーマにするのも良いのではないかと考えた（都道府県・市町村・行政担当者向けに）。
- ・なぜ、東海エリアの野菜摂取量は全国に比べて少ないのか。
- ・地産地消を進めるにあたって自治体が行っていることや補助等について知りたい。
- ・東海エリアの地場産物が消費拡大しない課題について。

5 今後、地産地消や国産農産物の消費拡大の推進に向けて国の事業等で推進して欲しいこと

- ・地産地消を進めるための連携できる場が増えるための活動。
- ・給食を食べる子ども達へ地産地消で地元のものを使用して作られていることは通信等で各家庭へ届いていると思うが、その野菜などの生産量が上がるように作ってくれる人、とってくれる人の募集など推進的なことも載せていただけたら子どもを通して大人の方々へも発信してもらえると。高齢化している生産者に若い協力者、生産者の育成につながってほしい。
- ・生産者の方の高齢化。後継者問題でやめざるを得なくなった生産者の方、大手企業が地元農家の方と契約してしまったなど、給食で地元食材を使いたくても使えない状況がある。
- ・地場産物使用での補助など使用しやすい体制作りを。
- ・大規模調理場ではスイカなど使用したくても生では提供できない。スイカゼリーなど地場産物を取り入れた加工食品の開発ができる組織づくりの支援をいただきたい。
- ・岐阜県のように補助金を出してくれるような事業があれば。
- ・岐阜県のような補助金制度が充実すれば価格面で安心して使えると思う。金額もできるだけ多くほしい。
- ・食品ロス削減のために教育できる資料やキャンペーンなどを推進してほしい。
- ・農林水産省・文部科学省・厚生労働省の連携強化、促進について。第5次食育推進計画では、上述3省が連携していくことになった。学校教育・給食現場では省の設置目的も異なると思うが（県や市町でも同様）連携を強化していただくことが、Win-Winの関係になると思う。具体的には岐阜県の補助制度等を国レベルに格上げしていくことで地産地消や付加価値の高い農産物の確保や農業経営者の確保につながり「日本

の農」を発展・維持していくことになるのではと感じた。

- ・地産地消に取り組みたい企業が参入しやすい仕組みづくりやフェア、セミナーを開いてほしい。
- ・異物混入でも食品に由来するものについて、クレームにしないガイドラインのようなものができたら良い。

6 その他、ご意見

- ・色々な話を教えていただき参加できて本当に良かったと思う。また勉強させていただきたいのでチャンスがあれば職場の仲間とこのような勉強ができたらと思う。またの開催を楽しみにまっている。
- ・調理業務の請負や委託会社は業務を圧迫しているという話がありましたが、公立は時間外はなく委託はあるという説明は妥当ではないのかなと感じた。委託会社さんとの協力する姿勢が必要かと思った。質問を中心に先生方からたくさんのお話が聞けて良かった。
- ・発表事例からは地産地消への程度推進や効果が図れたかの数値や金額等が見えなかった（学校給食関係の発表のためか）。この部分は主催者や企画運営部門の管轄となるかもしれませんが。

■近畿会場：2017年2月22日（水）13:00～16:30

●参加者：35名 ●アンケート回答者：12名（回収率34%）

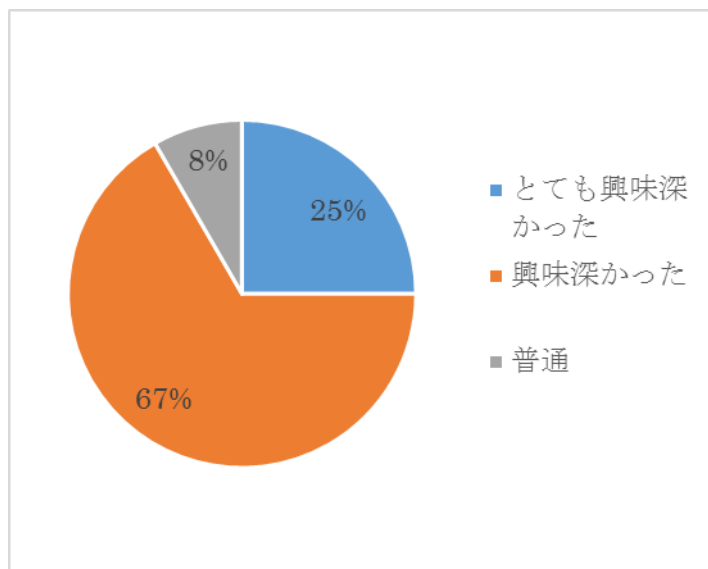
●会場：京都府京都市「京都リサーチパーク」東地区1号館4階サイエンスホール

●テーマ：地場産活用・施設給食（施設等）

1 ご自身の所属について

- (1)消費者・消費者団体・・・1名 (2)生産者・生産者団体・・・0名 (3)民間企業・・・2名
(4)行政機関・・・7名 (5)メディア関係者・・・0名 (6)その他・・・2名（地域おこし協力隊）

2 今回のセミナーの内容はいかがでしたか？



3 本セミナーのご感想

(1) とても興味深かった

- ・実際に地産地消に取り組んでいる施設の話が聞けて良かった。現状に満足せず、まだまだできることは沢山あると思った。
- ・地産地消の取組みを進めていく上で、地域との連携や様々な情報が関係者間で共有されることが大切だと感じた。
- ・とても勉強になった。病院に持ち帰って改善できることはしていきたい。商品の情報は私達も悩みの一つ。

(2) 興味深かった

- ・事例紹介の方の話がたいへん分かりやすく内容が良く分かった。いずれも、素晴らしい取り組みと魅力あふれるメニューだと思った。
- ・たくさんの事例の話が聞けて勉強になった。
- ・どのようなきっかけで始めたのか動機部分をもっと聞ければ良かった。
- ・今後、地域で地産地消をすすめる上でのヒントを得ることができた。
- ・食育基本法の兼合いで実施側と生産者（提供者側）の意識に違いがあり、進めるにあたっての一つの壁となっていることを分かりやすく話してくださり良かった。
- ・皆様すばらしい取り組みをされていて驚いた。どの活動も継続できるような仕組みづくりが大事だと感じた。
- ・学校給食では地産地消はよく聞いていたが、病院でも地産地消に取り組んでいることは知らなかったのが驚いた。今回は公立の病院の事例だったので民間の病院でも地産地消に取り組んでいるか気になった。
- ・地産地消に対する取り組みについてよく分かった。もっと広まれば良いと思うが人手と労力をかけていると感じた。効率的なシステム化ができればもっと広まると思う。

4 今後、地産地消や国産農産物の消費拡大に関するセミナー等で取り上げて欲しいテーマ

- ・地産地消を各年齢、場面、対象者において推進する上でのアプローチ方法と食育的手法の有用性など。
- ・大学や業者（企業）食堂や給食での地産地消の事例紹介や事例研究をとりあげていただきたいと思う。
- ・どのようなきっかけで実践者が地産地消に取り組むようになったかを学べるセミナーがあれば嬉しい。（今回のような公的な施設、学校給食など）
- ・学校、病院の場だけでなく市場での取り組みについて。
- ・「地域商社」について。
- ・民間の病院や民間の企業で地産地消に取り組んでいる事例があれば取り上げて欲しい。
- ・生産者組織（集荷・加工組織）の事例。

5 今後、地産地消や国産農産物の消費拡大の推進に向けて国の事業等で推進して欲しいこと

- ・地産地消にした時のコスト差を埋めていけるような事業、もしくはしほりをつくる。
- ・生産者（価値あるものを高値で供給したい）と使う側（いいものを安く入れたい）での価格差をうめる施策、仕組み。
- ・事業者への研修会など。
- ・農業者・漁業者等、一次産業者への支援を進めてほしい。
- ・地元食材を活用すると価格が高いという問題で、民間病院・企業はなかなか取り組みが難しいと思う。そこで、国が地元食材を使うと補助金が出るような制度があれば地元食材の消費が拡大すると思うのでそのような制度を推進してほしいと思う。
- ・私自身各地の地元食材の料理については知らなかった。ご当地グルメのPRをする必要があると思う。

6 その他、ご意見

- ・今回のように地方会場をいくつも設けていただくと参加しやすい。

■九州会場：2017年2月27日（月）13:00～16:30

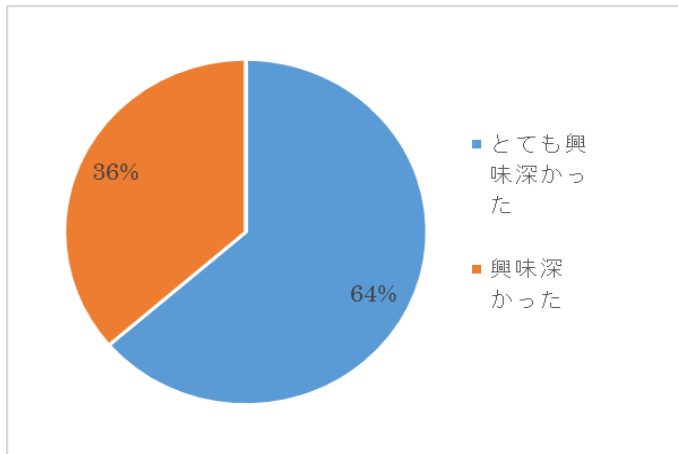
●参加者：41名 ●アンケート回答者 11名（回収率 26%）

●会場：長崎県大村市「おおむら夢ファーム・シュシュ」 ●テーマ：交流促進＋地域振興

1 ご自身の所属について

(1)消費者・消費者団体・・・1名 (2)生産者・生産者団体・・・3名 (3)民間企業・・・2名
(4)行政機関・・・5名 (5)メディア関係者・・・0名 (6)その他・・・0名

2 今回のセミナーの内容はいかがでしたか？



3 本セミナーのご感想

(1) とても興味深かった

- ・農家目線、レストラン経営目線から農業の在り方を色々聞けて参考になった。
- ・色々な事例を聞けて参考になった。
- ・別々のテーマの話を書くことができ、大変参考になった。
- ・県外事例の生の情報を聞くことができて良かった。
- ・色々な事例を聞けて勉強になった。意見交換会で裏の部分、マイナス部分等聞けて良かった。
- ・内容が充実しているので開催のPRをもっとすべきでは、もったいない。
- ・シュシュの取組みに感銘を受けた。農家から発信の道の駅等他にもあるので、考え方など勉強になった。

(2) 興味深かった

- ・色々な所の取組みが聞けて良かった。
- ・各企業の取組みがどのような取組みをしているのか良く分かった。
- ・商品への参考にもなり、色々な取組みがあり面白かった。まだまだ農業には可能性がたくさんあり、時代の流れにも左右されるなど学ぶことが多かった。今後の直売所発展に努めたい。
- ・県外の事例を知ることができ参考になった。あいあいファームの発表の方が聞きとりづらく残念でした。それぞれの組織の全体図（全体構成）の説明があればより分かりやすいものになったと思う。

4 今後、地産地消や国産農産物の消費拡大に関するセミナー等で取り上げて欲しいテーマ

- ・子どもの食事について。食育に関連させて野菜を好きになってもらうため。
- ・農産物と農産物以外の地域資源を取り込んだ活動について。
- ・有機栽培や無添加の加工品の成功事例。
- ・地産地消×観光＋インバウンド。

5 今後、地産地消や国産農産物の消費拡大の推進に向けて国の事業等で推進して欲しいこと

- ・マーケティングやブランディングのサポート。
- ・学校給食へ食材提供する専用冷蔵車の事業導入（補助）、配送、搬入者の人件費への助成。
- ・毎年度（季節度）ネットやコンビニで購入できる地域の加工商品の製品化。

6 その他、ご意見

- ・本日はこのようなセミナーを開いていただきありがとうございました。今後の直売所発展へ向けて努力が足りないと感じました。

以上（文責：まちむら交流きこう）